

京都府立綾部高等学校（全日制課程）

歴史と伝統を伝えるまち 綾部

- ◆対象 普通科 スポーツ総合専攻 3年（1クラス 41名）
普通科 3年 5名

- ◆実施日 平成 30 年 7 月 6 日～平成 30 年 11 月 9 日

◆活動のねらい

本校所在地の綾部市は京都府北部唯一の国宝である光明寺「二王門」をはじめ、地域の伝統行事など、多くの有形無形の歴史的・文化的資産を有している。しかし、本校は綾部市以外から通学している生徒が半数以上在籍しているため、綾部市の歴史や伝統について知らない生徒もいる。

綾部太鼓については、平成 6 年度から「綾高太鼓」として保健体育科の授業で取り組んできた経緯があるため、スポーツ総合専攻の生徒たちは基礎・基本的な部分については学習している。しかし、時間と予算の関係上、綾部太鼓の歴史や伝統について学習する十分な時間と予算が確保できていないので、本事業を活用することにより、綾部太鼓保存会の方から直接、指導を受けることでスポーツ総合専攻ならではの「綾高太鼓」に深みを持たせることをねらいとした。

また、放課後英語活動については、生徒自らが英語で「綾部の民話・伝説」を発信することで、綾部市の歴史や伝統について理解を深めるとともに、綾部の伝統文化を発信・アピールできる基盤となる学習に繋げることをねらいとした。

◆活動内容

1 綾部太鼓

- 8月 28 日 体育祭での発表に向けての事前指導（スポーツ総合専攻 全学年）
8月 31 日 体育祭での発表に向けての事前指導（スポーツ総合専攻 全学年）
9月 12 日 全校生徒・保護者の前での発表（体育祭が雨天により発表できなかったため）



スポーツ総合専攻 全学年

10月16日 京都府立高等学校体育系1年生合同研修会での発表



10月26日、11月2日 学校公開、第5回京都府高校生伝統文化フェスティバルに向けて事前指導



10月27日 学校公開での発表 11月4日 第5回京都府高校生伝統文化フェスティバルでの発表



11月9日 各発表についての講評と綾部太鼓の歴史についての講義



2 放課後英語活動

- 7月6日 紙芝居の作品選び
- 7月9日 英文練習（英語科教員）
- 7月10日 英文練習（英語科教員）
- 7月11日 綾部市図書館長からの事前指導（紙芝居の演技方法について）
- 7月20日 英文練習（英語科教員とAETによる英語の発音練習）
- 7月23日 英文練習（英語科教員とAETによる英語の発音練習）
- 7月24日 英文練習（英語科教員とAETによる英語の発音練習）
- 7月25日 発表会（英語科教員）
- 7月26日 綾部市図書館長に発表終了の報告をし、発表会での録画ビデオを配付した。
- 9月26日 講評会（英語科教員、AET、綾部市図書館長）



綾部市図書館長による事前指導



綾部市小学生イングリッシュキャンプでの発表

平成30年7月27日付け あやべ市民新聞

平成30年7月29日付け 読売新聞

**市教委が小学生対象に
イングリッシュキャンプ**

綾高生による英語の紙芝居も

今年で4回目を迎え、クリッシュキャンプ。今年市教委主催の「イン」が25、26の両日に鷹栖

町の東綾小中一貫校で開かれ、市内の小学4～6年生のうち参加を希望した108人が「英語漬け」の2日間を過ごした。

「キャンプ」と銘打っているが宿泊はなく、帰り朝から夕方まで、外国語指導講師（ALT）とふれあって英語に親しむことで英語への自信と興味・関心を高めてもらうと企画されている。最初の2年間は5、6年生対象だったが、昨年からは4年生にも門戸を開いている。

子どもたちは8班に分かれ、8人のALTと交流。初日は午前中、英語を使ったゲームを

楽しむなどしたあと、昼食後には今回初めて綾部高校のES部（「イングリッシュ・スピーキング・ソサエティ」、荻野遥部長）の5人が来校し、紙芝居を英語で演じた。内容は綾部に伝わる民話「杵の宮伝説」と「岡の女房」で、生徒らは市図書館から紙芝居のセットを借りるとともに読み方のアドバイスを受けるなどして本番に臨んだ。全編英語だったが、終了後に生徒が児童に物語の結末を尋ねると、しっかり答えることができたり子どもも、理解した上で物語を楽しめたようだ。【四方憲生】

地元の民話の紙芝居を英語で披露する綾部高の生徒（綾部市で）

**「英語」って
おもしろい**

綾部市の小学4～6年生が楽しみながら英語に親しむ「イングリッシュキャンプ」が、同市鷹栖町の市立東綾小で行われた。市教委が主催する夏休みの恒例行事。今回は市立10

紙芝居など綾部の児童学ぶ

小の109人が対象で、25、26日に外国語指導助手らとゲームなどを通じて理解を深めた。

25日は府立綾部高の生徒5人が、地元の民話「杵の宮伝説」と「岡の女房」の紙芝居を英語で披露。児童たちは「聞いたことがある単語があった」「あんなふうに話せるようになってみたい」と振り返っていた。

◆成果と課題

綾部市の無形文化財である綾部太鼓においては、平成6年度から普通科第Ⅲ類体育系において保健体育科の授業で取組を始め、その伝統を受け継ぎながら綾部高校独自の「綾高太鼓」として、これまで体育祭をはじめ各種行事等でその成果を発表してきた。その後、文化を未来に伝える次世代育み事業（学校・アート・出会いプロジェクト）を活用することで、綾部太鼓保存会の方から直接、指導を受けることができるようになった。しかし、予算の関係上、基礎・基本的な部分しか指導を受けることができず、その他の事項については、保健体育科の教員が指導をしてきた。本事業の指定を受けることにより、綾部太鼓の歴史等も学習できるようになり、スポーツ総合専攻ならではの「綾高太鼓」に深みを持たせることができた。その結果、第5回京都府高校生伝統文化フェスティバル（第35回京都府高等学校総合文化祭）郷土芸能部門伝承芸能では例年以上の完成度の高い発表ができた。さらに、今年度は竹樽を中心に新規購入や修繕等を行うことができた。しかし、大太鼓が老朽化しているため、その高額な修繕費用をどの予算から捻出するかが課題となっている。

放課後英語活動においては、ESS部員が学校内での活動だけではなく、学校外での地域との連携活動を検討している中で「綾部の伝説・民話」の紙芝居（英語版）が綾部市図書館にあることを知り、その活用について相談したところ、積極的に活用してほしいとの依頼があった。さらに、綾部市教育委員会からも「小中学校のふるさと教育、国際理解教育」に協力してほしいとの依頼もあったことから、今回の事業を活用することで、それぞれの機関がWin-Winの関係で連携して取り組むことができた。さらに、高校生が日頃学習している英語の成果を発表することができ、紙芝居を通して英語の楽しさを小学生に伝えることができたことは非常に大きな成果であった。また、発表会当日に複数の新聞社から取材を受けることができたので、今回の取組を広く市民の方々に理解していただくことができた。

今回発表した生徒は全員3年生であり、しかも少人数であったことから、次年度にどう繋げていくかという点が課題である。

◆生徒の感想など

（1）綾部太鼓

- ・基礎から細かいところまで丁寧に教えていただき、ありがとうございました。高校最後の発表で思い出に残る素晴らしい発表ができ、自分たちの力を全部出し切ることができました。
- ・綾部太鼓保存会の方から太鼓の技術だけではなく、自分たちの気持ちを太鼓で表現する「音魂」を感じることができました。
- ・九鬼水軍太鼓の伝統を表現しつつ、自分たちのオリジナリティを加えた綾高太鼓として発表することができ、あのリズムは一生忘れないような気がします。

（2）放課後英語活動

- ・綾部市図書館の館長様から子どもたちを引きつける前フリの方法や紙芝居の読み方を丁寧に教えていただくことができ、本番に活かすことができました。
- ・「どっすーん」という擬音語を英語でどう表現すればいいのだろうと苦労しましたが、小学生たちが喜んで聞いてくれたので良かったです。
- ・AETの先生にも英語の発音を褒めてもらい、小学生からも「もう1回読んで」と言ってくれたのが大変嬉しく、やりがいを感じました。